

氏 名	豊澤 惇希
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 7227 号
学位授与の日付	2025 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Adverse Events after Different Endoscopic Resection Procedures for Small and Intermediate-Sized Colorectal Polyps (小型～中型の内視鏡切除法別の偶発症の検討)
論文審査委員	教授 大塚文男 教授 藤原俊義 教授 田端雅弘

学位論文内容の要旨

近年、従来の内視鏡的粘膜切除術(EMR)に加え、Cold snare polypectomy(CSP)や Underwater EMR(UEMR)が開発されているが、それぞれの方法の有害事象は十分に明らかにされていない。各手法の治療成績を比較し、適切な選択を行った。

2017 年 4 月から 2020 年 6 月までに小・中型大腸ポリープに対して CSP、EMR/Hot snare polypectomy(HSP)、UEMR を施行した患者を後方視的に検討した。各手法による有害事象発生率と再発率を主要アウトカムに設定した。有害事象に関連する臨床因子を検討した。

3,163 個のポリープを有する計 1,025 例がいずれかの方法でポリープ切除術を受けた。CSP は 704 例 (22.2%)、EMR/HSP は 2,145 例 (67.8%)、UEMR は 314 例 (9.9%) に施行され、各手法の大きさの中央値はそれぞれ 4mm、6mm、7mm であった。CSP、EMR/HSP、UEMR における遅発性出血はそれぞれ 0%、0.2%、0.6% ($p=0.15$)、穿孔はそれぞれ 0%、0.1%、0% ($p=0.62$) であった。CSP、EMR/HSP、UEMR 後の再発はそれぞれ 0.3%、0.09%、1.3% であった ($p<0.01$)。UEMR の再発率は手技導入初期に有意に高かった ($p=0.015$)。抗凝固薬は遅発性出血の危険因子であった (それぞれ $p<0.01$)。

結論として中・小型大腸ポリープに対する UEMR 後の再発率は他の方法より高かったが、有害事象に関しては各方法間に有意差はなかった。

論文審査結果の要旨

近年、従来の内視鏡的粘膜切除術(EMR)に加え、Cold snare polypectomy(CSP)や Underwater EMR(UEMR)が開発されてきたが、それぞれの方法の有害事象は十分に明らかにされていない。申請者らは、2017 年 4 月から 2020 年 6 月までに小・中型大腸ポリープに対して CSP、EMR/Hot snare polypectomy(HSP)、UEMR を施行した患者を後方視的に検討した。各手法による有害事象発生率と再発率を主要アウトカムに設定し、有害事象に関連する臨床因子を検討した。3,163 個のポリープを有する計 1,025 例がいずれかの方法でポリープ切除術を受けた。CSP は 704 例 (22.2%)、EMR/HSP は 2,145 例 (67.8%)、UEMR は 314 例 (9.9%) に施行され、各手法の大きさの中央値はそれぞれ 4mm、6mm、7mm であった。CSP、EMR/HSP、UEMR における遅発性出血はそれぞれ 0%、0.2%、0.6% ($p=0.15$)、穿孔はそれぞれ 0%、0.1%、0% ($p=0.62$) であった。CSP、EMR/HSP、UEMR 後の再発はそれぞれ 0.3%、0.09%、1.3% であった ($p<0.01$)。UEMR の再発率は手技導入初期に有意に高かった ($p=0.015$)。抗凝固薬は遅発性出血の危険因子であった ($p<0.01$)。結論として中・小型大腸ポリープに対する UEMR 後の再発率は他の方法より高かったが、有害事象に関しては各方法間に有意差はなかった。

本研究は、内視鏡手術選択における再発率などの成績について、新知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。